

# 「日本発の国際会計事務所」

# 海外進出をワンストップでサポート

東京コンサルティングファーム

## 世界19カ国に拠点——ベトナム・中国・インド・ロシアほか



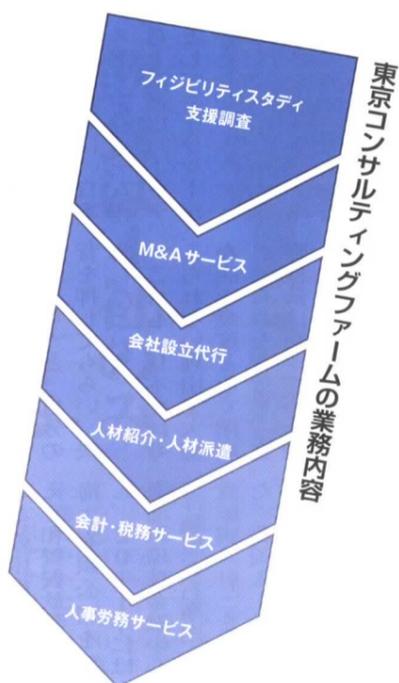
代表 久野康成氏

ベトナム、ラオス、カンボジアから中国、インド、ロシアなど19カ国に拠点をもち、海外の進出支援をする公認会計士事務所がある。(株)東京コンサルティングファームだ。

士業界は日本以上に飽和状態、和状態の仕事がなくなっている。久野康成代表は2006年、これからの税理士業務の時流は「国際業務」にあると、上海と香港に進出するが、すでに多くの国際会計士事務所が海外進出企業の支援をし

初版を発売したのが、2010年。インドを手始めに、2011年よりタイ、モンゴル、ベトナム、シンガポール、インドネシア、カンボジア、スリランカ、フィリピン、上海、ラオス、バングラー

東京コンサルティングファームでは関連会社TCG出版を設立し、社員約50人が、現地から最新情報を収集して編集にあたっている。



同社は海外進出に関する本「インドの投資・会社法・会計税務・労務」タイの投資会社法・会計税務・労務」ベトナムの投資・会社法・会計税務・労務」インドネシアの投資・会社法・会計税務・労務」を次々と発行。バングラー、デシユ、パキスタン、スリランカからフィリピン、ミャンマー、カンボジア、ラオス進出のための実務書も計画。100冊以上刊行されてドネシアの投資・会社法・会計税務・労務」を

「今後、日本はアジアを中心に産業がポータブル化していく。この波に取り残された企業は『企業使命』を失うほ

「アメリカ公認会計士として、今後の30年間に参加した時のことを開行していきたい」

「インドの投資・会社法・会計税務・労務」の

手引書を出すのがビジネス戦略となっていた。2007年、いまだ日系会計士事務所がなかったインドのニューデリーに進出。チェンナイ、バンガロール、プネ、ムンバイの5拠点を事務所を設立する。企業の海外の進出支援ビジネスモデルを確立し独立系会計士ナンバーワンの地位をインドに築く。

東京コンサルティングファームでは、5月16日に中国進出セミナー「技術をお金に変える新中国進出モデル」を開催する。

「中国進出で成功するには製造業としてではなく、エンジニアリング業としてのサービス業として進出するのが鍵」と、久野康成代表

昨年からの急速な海外事務所設立を可能にしているのは、同社の豊富な人材だ。

従来からの急速な海外事務所設立を可能にしているのは、同社の豊富な人材だ。

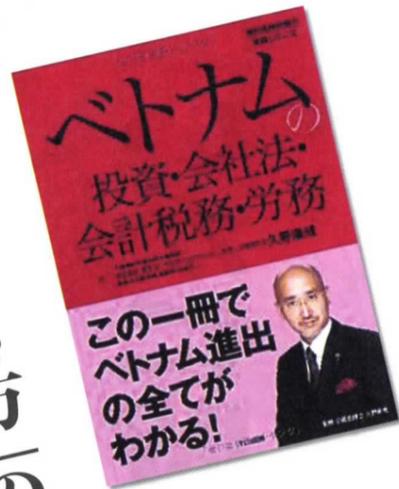
2004年当時、多くの税理士受験生が、経営コンサルビジネスを得意とする。人材ビジネスとして受け入れた多くの社員を、財務コンサルや経営コンサルができるまで育成。

労働人口が減少する日本国内において、人材ビジネスも淘汰が始まるのを見越し、語学力に優れた社員を、海外へ国際会計士として派遣し、ビジネス拡大開コンサルティンクを進めている。

## ●「対中国」の新ビジネス戦略●

「地球の歩き方」の会計版をめざす

この一冊でベトナム進出の全てがわかる!



東京コンサルティングファームでは、5月16日に中国進出セミナー「技術をお金に変える新中国進出モデル」を開催する。

「中国進出で成功するには製造業としてではなく、エンジニアリング業としてのサービス業として進出するのが鍵」と、久野康成代表

売上が上がる前では、中国企業は日本側なく、工場や機械は中国企業が支払い、技術リソースを出し渋るし、技術移管が進み、自分たちで工場稼働できるようにになると、ますますロイヤリティは支払われない。

そこで、技術のロイヤリティを技術移管料を得ることにしている。

国内では利益に結びつかなくなっている今、海外流出を前提とした国際ビジネスが中小企業にも求められている。

技術のライセンスを株として売るビジネス (轟見剛)

